

ソフトカプセル外観 自動検査装置を開発

ティーワイテクノ

山形県内2社と連携

【山形】ティーワイテクノ（山形市、工藤水起子社長、023・688・9334）は、栄養補助食品（サプリメント）などに用いるソフトカプセルの自動外観検査装置を開発、販売を始めた。経済産業省の中小企業支援施策の一つ「新連携」認定による事業の一環で、山形県内のモノづくり企業2社と連携して開発した。健康食品関連の受託製造会社から受注した。4月にも1台を納入する。2010年度は約3億円の販売を目指す。

連携体は中核企業のティーワイテクノのほか、形工場（酒田市）の3社。地元の東北芸術工科大学が製品デザインを支援し、ファイダー部設計

製造のアートテック山形工場（酒田市）の3社。地元の東北芸術工科大学が製品デザインを支援した。

最終外観検査は、目視による対応が主流で、同検査の自動化を狙った。開発した装置は毎秒15個の検査が可能で、1個ずつ全数検査する。6台のカメラでカプセルを6面に分割する画像解析技術により、全面・全周の高精度な検査ができるという。

う。各種形状のカプセルに対応可能とした。新装置は、受注先の仕様に応じて製作する。価格は3500万円から対応する。連携体の中核企業であるティーワイテクノは09年1月の創業。ハード、ソフト、メカトロ、光学などの技術を統合したシステム開発（エンジニアリングマシンビジョン）分野を手がけている。



販売を開始したソフトカプセルの自動外観検査装置